

参加国：日本、韓国、オーストラリア、インドネシア、フィリピン、カナダ、ミャンマー

◆実務者会議に至るまでの経緯

日本で行われた背景には、昨年7月世界NCM会議（篠澤俊一郎師出席）にてアジアNCMコーディネーター；ジョンワットン師と初めて面会し、そこで日本の状況・そして支援と伝道の観点から考えていくビジョンをお話しました。

ワットン師はそれまで日本を訪れた事はなく、日本のイメージがほとんどわからなかったのですが、この面会を通して大変日本に関心を持たれ、そしてその事を監督にもメールされるなど将来自分も日本に行ってみたいと語っておられました。

先生のその思いが実り、早速昨年10月に来日され、京都・東京・アジア学院を訪れさらに日本のアジアでの働きの重要性を確信されました。

それらのレポートはナザレン本部やNCM本部にも送られ、日本の働きに今後注目していくという事となりました。

そして先生の想いと共に、アジア太平洋地区局長のマークロー師よりアジア・太平洋地区のNCMをグローバル化するという指示があり、その第一回実務者会議を日本で持ちたいという具体的なものとなり、それが行われた記念すべき第一回目の会議です。

アジア各国の実務を請け負うNCMのトップが一堂に介する大変重要な会議となりました。近年、世界では災害・貧困・紛争が多く起こり、世界ナザレンにおいてもNCMの働きが年々大きくなっており力を入れている分野・将来に期待されている分野です。

●10月1日（日）

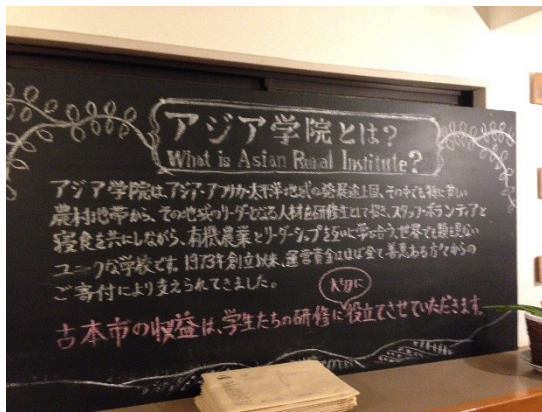
各国のNCM代表が関東地区のナザレン教会にて礼拝・メッセージを行いました。

・ 目黒教会、国立教会、藤沢教会、小山教会、下北沢教会、小岩教会

●10月2日（月）

場所：学校法人アジア学院

・ 場所を栃木県那須塩原市にある学校法人アジア学院に移し、ミーティングと共に、アジア学院が行っているアジア、アフリカ、太平洋諸国の農村地域から学生を招き、農村指導者養成を行っているプログラムに参加。



● 10月3日(火)

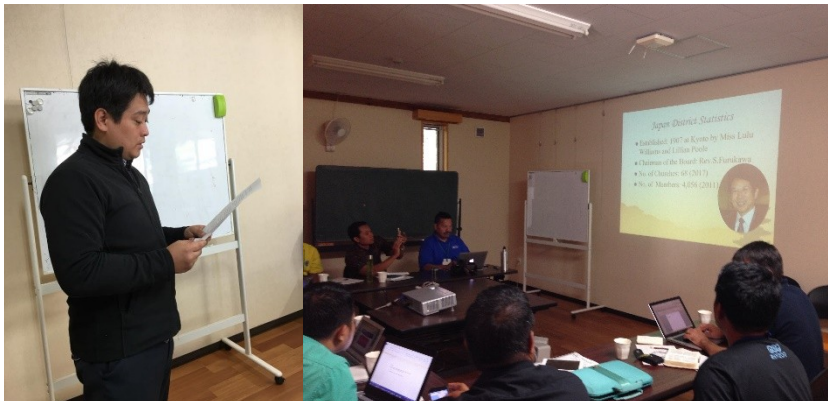
農村指導者プログラム・フィールドワークに引き続き参加。発展途上国における農村開発について等。



● 10月4日(水)

六時に起床後、農作業を行いチャペルにて聖書研究のようなディスカッション、その後は、夕方まで各国の支援の実情を共有しました。

ミーティングが行われる前に日本ナザレン教団理事長：古川先生より頂戴したあいさつ文を篠澤俊一郎師が代読しました。各国の代表も大変喜んでおられました。



また、現在の日本の現状、NCM ジャパンが進めている「こどもの貧困」についての取組・

それに繋がる教会水族館の様子を伝え、JNCMとNCMジャパンの関係についても説明しました。＜プレゼン内容は別紙を参照＞

居場所支援としての教会水族館は他の国でも前例がなく、これらの試みは大変に有意義であり、このような試みをする教会の情報を共有する事の重要性を確認しました。

また各国が大変興味を持たれたのはJNCMは教会からの寄付としての寄付団体として、またNCMジャパンは活動団体として自治体やクリスチャンじゃない方や団体からの寄付を行うこの2代体制（JNCM・NCMジャパンとの良好な関係・相互フォローの関係）です。この2代体制はとても理想的であり、これからのアジアの各国NCMのモデルになるとの事で、このシステムを是非とも手本にさせてほしいとの事でした。

特に韓国NCMが興味を持ち、日本のこの体制を学ばさせていただき、これまでの流れ・資料を是非とも送ってほしいとの事でした。

また日本は第三の経済大国という事で、NCMジャパンは確かに資金はないが「知識」・「自治体・企業などとの交渉能力」があり、世界NCMとも協力し、これらをうまく活用する事でアジアの発展途上国に物資や人材を宗教関係なく支援・派遣する事も今後夢ではない

と各国が確信し、そのために連携を深め共に祈り合う事の重要性を確認しました。

・フィリピンリージョンの代表とチャイルドスポンサーシップについて意見交換。

日本はこれらの窓口業務を行っておらず、進んでいない。子どもを支援する事の重要性を学びました。（ジョンウェスレーの言葉：自分にはこどもの伝道のタレント・技術を持っていない、こどもへのタレントがないと思う者は教会から去りなさい）

＜2016年7月に、チャイルドスポンサーについてNCM本部（アメリカ）にて篠澤俊一郎師が窓口業務について協議を行いました＞

以下が当時の会談内容です。

-----

協議メンバー

- ・ Carissa Rocha - International Sponsor Relation Manager
- ・ Stefanie Phelps -Child Sponsorship Field Specialist
- ・ Jermy Moser -NCM Finance coordinator

現状：NPO 法人NCM 事務所は・ 予算がない、・ 翻訳者を雇えるほどの資金がないという事を伝え、ざっくばらんに協議。

勿論、まだ煮詰める話は多くありますがおおまかな話として、

- ・ NCM本部で子ども達のレターやパンフレットは英語から日本語に翻訳してくれる。担当者をパートタイムで雇う。
- ・ 子ども達のレターや重要種類も日本語に翻訳して、スポンサーになっている支援者にNCM本部より直接送る。

という事が決まりました。

そして日本事務所が行う事として、

- ・日本人支援者から問い合わせや申し込みがある場合、その対応が NCM 本部でないと解決しない場合は日本語から英語に翻訳して知らせてほしいという事。

- ・また、スポンサーの支援金はまとめて、シンガポールに送金するという事。

このスポンサーの支援金ですが、NCM 本部の送金するお金は本来 30 ドルですが、今回、このための日本事務所の事務所費（固定費）が必要であることを伝え、20 ドル上乗せする事に同意・内諾いただきました。

但し、シンガポールに送金する場合は 30 ドルのみ送金してほしいとの事です。本来は 30 ドルなので混乱してしまうというのがその理由です。

ただ日本事務所がこれによって段々と自立する事ができるようになれば、翻訳作業も含めて日本事務所に移管していく旨を確認しました。

-----

以上が当時話し合われた内容ですが、2017 年 10 月現在、現状日本事務所に正式窓口がなければ進められないプロジェクトであるというのが NCM ジャパンの見解です。JNCM との相互関係を確認し、支援いただきボランティアベースではなく事務所を正式に立ち上げて初めて進められるプロジェクトだと思われます。

● 10 月 5 日（木）

実務会議最終日。

各国の実情と課題を共有。それぞれの支援活動の大変さが伝わってきました。何が必要なのか？何ができるのか？

これらの事を各国が持ち帰り、何ができるのかをデータ化・リスト化して各国ごとにマッチング作業を行い、アジア・太平洋地区の支援活動の情報共有・支援活動のグローバル化を図っていきます。



次回会議は来年 4 月にミャンマーで行われる予定です。

ご存知の通り、ミャンマーでは現在多くの難民が出ています。

今回この事についても話し合われました。



紛争地域は軍隊が包囲している事と、NGOが武器を民兵に供給しているというというミャンマー政府の疑心暗鬼があり、支援活動が難しいとの事。

ただバングラデシュに難民が流入しており、こちら側からの支援を今後考える必要性があり、その事についても情報を集め、来年具体的に進めていきたいと思います。ちなみにバングラデシュはNCMのアジア・太平洋地区ではないためインド・中東地区との連携も今後必要です。

アジア地区のパートナーシップは始まったばかりなのでこれから進められていきます。

私たちは「チーム」という言葉を合言葉に、今回チーム名を作りました。それは、「スーパー8」です。

8の内訳は「ニュージーランド・オーストラリア/リージョン」・「フィリピン/リージョン」・「インドネシア/リージョン」・「日本/リージョン」・「韓国/リージョン」・「中国・リージョン」・「東アジア/リージョン」・「アジア太平洋地区本部・シンガポール」。これが創設メンバー。

次回2018年4月に行われる実務者会議にて、具体的にアクションを起こしていく事となりました。

その意味でJNCMを寄付団体、NPO法人NCMジャパンを実行団体として進め、財政面・組織面をしっかりと構築し、相互扶助の関係づくりが早急に求められています。



●10月6日(金)

各国代表帰国。

次回協議：2018年4月予定

場所：ミャンマー連邦共和国